

コマ回し

刈谷市立富士松北幼稚園（愛知県刈谷市）

[5歳児]

きっかけ

3歳児の頃から遊んでいた木ゴマを6月頃から用意したところ、「こうやって回すんだよ」「僕も回せるよ」と得意気に回す姿や、友達とかけ声を掛け合いながら一斉に回す姿など、友達と一緒に楽しむ様子が見られた。

コマ回しが好きで毎日行っているD児が、「ここで回すのは？」と言い、プラフォーミング（圧縮プラスチック製の積み木）で囲いを作る。「ここがバトル場だよ」とその中でコマを回し、「ここは滑り台みたいなコース」「見て！コマが滑ってった！」とコースを作ったり、試したりする。保育者も一緒にやってみて、「本当！先生のも滑ってった！」と驚くと、周りの幼児も興味をもち、同じように回す姿が見られた。



保育者の願い

思いついた事や考えた事を伝えたり、実際にやりながらより面白さを見つけたりして欲しい。そして、友達と一緒に驚いたりやってみたりする事を楽しんで欲しい。

事例

D児、E児がプラフォーミングで囲いを作り、その中でコマ回しをしている。保育者も一緒に参加している。そこへ製作をしようとミニゼリーとヤクルトの容器を持って通りかかったF児が、「すごい！」と興味を示す。D児「僕が考えたんだよ」とF児の前で回して見せる。それを見てF児「僕も！」と言い、容器を床に置いてコマを回し始める。4人でバトルをしていると、(1) コマが偶然、床に置いたままにしてあったヤクルト容器を弾く。D児「あっ！」F児「弾いた！」と顔を見合わせる。保育者も「あっ！弾いた！」と顔を見合わせ驚く。(2) それを見ていたE児が、「いいこと思いついた！」とヤクルト容器をたくさん持って来て囲いの中に並べ、「僕のコマ、いっぱい弾くよ」とコマを回し始める。すると容器がいっぱい倒れる。(3) 保育者が「Eちゃんすごい！いっぱい倒れた！」と言うと、E児「よっしゃー！」と喜ぶ。D児、F児も「すごい！」「僕もやる」と言い、掛け声をかけて一緒に回しては、何個倒れたかを競っている。

しばらく楽しんでいると、(4) D児が「ねえ、ねえ。これは？」とミニゼリーカップを指さす。E児「あっ！それも弾けばいいじゃん！」と答える。(5) 保育者が「それも弾くかな？どうだろう？」と悩むと、D児「じゃあ、やってみればいいじゃん！」

F児、ゼリーカップを持って来て試す。しかし、ミニゼリーカップはコマが当たると横に動くだけだった。D児「あれ？」E児「できない」と困った表情で考える。D児「あっ！これは？」と言い、回したコマの持ち手に向かって、上からゼリーカップを落とす。するとコマの勢いにつられゼリーカップが勢いよく回り、最後には振り落とされた。E児「落ちた！！」F児「すごい！！」D児「見た、見た！すごいし！！」と喜ぶ。何回も試して楽しむ。次の日も同じメンバーで集まり、前日のように回したり、ミニゼリーカップにマジックで色を塗り、「きれいー」「僕のは青色になった」と思い思いに言い合いながら遊んでいた。



考察 《保育者のかかわりに視点を当てて》

- ・偶然の出来事を大切にしながら、幼児の驚きやひらめきに保育者も一緒になって共感することで、やってみようと思ったり、面白さを見つけたりするのではないかと感じた。(下線 (1) (2) (3))
- ・遊びの中でいろいろなことを思いついたり、面白さを発見できるよう、保育者も一緒になって悩んだり、試したりすることが大切だと感じた。(下線 (4) (5))

みどころ

コマが容器を弾いたという偶然性から、子どもたちが新たな遊びを思いつきました。また、子どもの柔軟な発想によって、「これはどうだろう？」「やってみればいい」とまた次の遊び方へと展開していきます。こうして子どもたちは“もの”と関わりながら、その“もの”の特徴や違いを感じ取り、思考を働かせて「科学する心」が動き出します。